

令和7年度 江戸川区立宇喜田小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 学ば子 やさしい子 元気な子 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見つけ学び、思考力・判断力・表現力・想像力のある児童を育成する。 人や自然とかかわりながら、感動する心、協調と思いやりの心を育成する。 友達と互いに励まし合いながら、しなやかでたくましい心と体を育成する。
前年度までの本校の現状	成果 <ul style="list-style-type: none"> 教科担任制の推進により、「学年での指導の共有化」に関する教職員対象の意識調査で数値目標を達成するなど、児童理解や指導力の向上に成果を感じることができた。 体力向上の取組の推進により、「すすんで体育に取り組む態度」に関する児童対象の意識調査で数値目標を達成するなど、運動意欲の向上に成果を感じることができた。 校内の情報共有や対応体制の整備や校内別室指導員の活用により、特別な配慮や支援を要する児童への対応の充実を図ることができた。 	課題 <ul style="list-style-type: none"> 学習習慣の定着や、基礎・基本の定着に関する取組の数値目標の達成に至らなかった項目があるなど、学習カルテを活用し板児童一人一人の習熟に応じた取組や指導の充実に課題がある。 運動や運動環境に起因するけがが一定件数発生するなど、児童の実態に応じた指導の充実や運動環境の整備を推進に課題がある。 児童一人一人が自身や相手の特性について理解を深めるための理解教育の推進に課題がある。 「TPOに応じた言葉遣い」の更なる定着のための指導の徹底や充実に課題がある。 	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○教科担任制の推進及び基礎・基本の確実な習得	<ul style="list-style-type: none"> 「話の聞き方」「ノートの取り方」等、学習環境整備と学習規律の徹底 1日1回以上のペアやトリオ、グループによる「学び合い」の学習活動設定 学年での指導の共有化 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容が分かりやすい（児童アンケート 肯定的回答90%） 話し合いや学び合いの学習に積極的に取り組む態度（児童アンケート 肯定的回答80%） 学年での指導の共有化（職員アンケート 肯定的回答90%） 	87.5	80	B	<ul style="list-style-type: none"> 「話の聞き方」「ノートの取り方」等について、教室掲示等を生かした指導を行っていることによる一定の効果が感じられている。 学び合い活動を重視した授業改善により、主体的対話的な学びにつながっていることが感じられている。 「ノートの取り方」の徹底と丁寧な字を書くことの習慣化について課題がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制の推進により、児童の理解度が把握しやすくなっていると感じる。 児童同士の学び合いは重要だと感じる。 児童の習熟度合いを把握し、基礎・基本の定着に向けた取り組みが重要だと感じる。 「ノートの取り方」については、教室掲示だけでなく、手本となる児童の発表などを行ってはどうか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおいて、「授業内容の理解」での肯定的回答が90%を超えている（96%）。また、「話し合いや学び合い」の肯定的回答が80%を超えている（89%）。 「ノートの取り方」「筆記用具の準備」は定着しつつあるが、丁寧な字を書くことの習慣化について課題がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの結果に、各取組の成果を感じる。 児童同士の学び合いについては、継続して取り組んでいただきたい。 情報通信技術の発達に楽しさを感じているが、字を丁寧に書くことについては大事にしてほしいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も教科担任制の確実な推進と充実を図っていく。 「ノートの取り方」の徹底とともに、効果的な評価方法や学習環境の整備等の検討していく。
	○家庭学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 補習時間（朝学習・放課後）の確保、家庭学習習慣の確立 「毎日1回実施」「1週間60分の実施」を目標としたドリルパークの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 区の学力定着度調査結果8割合格人数（80%） 目標値を超えるドリルパークの実施 	70.8	75	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の充実等により、授業以外で学習に取り組んだり苦手を克服したりすることに一定の効果を感じている。 取組週間以外でのドリルパークの活用促進や家庭学習時間の定着について課題がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の充実には、主体的に学習に取り組む態度の育成が必要だと感じる。 家庭学習の充実に向け、保護者に対して家庭での学習支援の在り方等を伝えていくことなども考えられるのではないか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間を活用した読解や文章の記述指導や補習学習の取組が定着してきている。 自主学習を進めるには、子どもたちのやる気を引き出すような働きかけや家庭との連携を重要だと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的に学習に取り組む態度を育成するための内容や方法の提示及び評価の在り方等について検討していく。 		
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 各学年年間指導計画に基づく探究的な学習の設定 タブレット端末と学校図書館のよさを活用した調べ学習の実施（児童アンケート 肯定的回答90%） 読書率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習の計画的な実施（100%） タブレット端末と学校図書館を活用した調べ学習の実施（児童アンケート 肯定的回答90%） 前学期の読書冊数を上回る読書量の確保 	70.8	80	B	<ul style="list-style-type: none"> 「6年間に読みたい100冊」の選書やボランティアによる読み聞かせなどにより、読書に親しむ土台が形成できている。 学校図書館の本を活用した調べ学習の機会が全学年的に減っているため、今後の指導機会の設定に工夫が必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各種のボランティアの方々等の活動等により、児童の読書環境が整っていると感じる。 タブレット端末が活用できる体制や取組により、児童の調べ学習が活発にできたと感じる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおける「タブレット機器や図書館を活用した調べ学習」の肯定的な回答が90%を超えている（93%）。 本を資料とした調べ学習について、単元や題材に応じてより効果的に取り入れていくことができるよう年間指導計画を検討していく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「6年間に読みたい100冊」の指導等への活用を期待している。 情報通信技術の発達に楽しさを感じているが、本を読むことについては大事にしてほしいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「6年間に読みたい100冊」の指導等への活用を期待していく。 本を資料とした調べ学習について、本を調べることに活用していき、取り入れていくことができるようにしていく。
体力の向上	○運動意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間における「めあて」の明確化 鉄棒、持久走、なわ跳びなど運動遊びの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「すすんで体育に取り組む態度（児童アンケート 肯定的回答85%）」 	79.2	90	B	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間における「めあて」の明確化を中心に授業改善を図ることによる一定の効果が感じられている。 運動が苦手な児童の意欲の向上について個に応じた指導や支援の充実が課題がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事や取組、休み時間の過ごし方などからは、体を動かすことができているように感じられる。 運動が苦手な児童に対しては、努力を認めたり褒めたりする支援の充実が有効ではないか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおける「運動・体育・外遊びへの取り組み」の肯定的な回答が90%を超えている（91%）。 1単位時間における「めあて」の明確化を中心に授業改善を図ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地域で元気に外で遊ぶ子ども姿が多く見られるよう、期待している。 どの子も楽しんで運動に取り組むことができるよう取組まれていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も1単位時間における「めあて」の明確化を中心に指導の充実を図っていく。 個に応じた指導や支援及び評価の充実を図っていく。
	○基礎体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 1年間を通した「なわ跳びカード」の使用 学期ごとのコーディネーショントレーニングの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 技の習得率の検証 昨年度と比較した怪我の割合の減少 	75	75	B	<ul style="list-style-type: none"> 「なわ跳びカード」の改善により、児童が見通しをもって取り組むことができている。 学期ごとのコーディネーショントレーニングについて児童の実態に応じた内容や取り組み方法の検討に課題がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体力の向上や記録の更新には精神力も要求されるのではないかと感じる。 運動が苦手な児童に対しては、努力を認めたり褒めたりする支援の充実が有効ではないか（再掲）。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「なわ跳びカード」の改善により、児童が見通しをもち、異年齢集団と教えあひながら取り組むことができた。 コーディネーショントレーニングの効果的な実施について課題がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 記録の更新に向けて子どもたちが頑張る姿が感じられる。 コーディネーショントレーニングについては、保護者や地域にも分かりやすい取組を検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なわ跳び」以外の体力向上の取組の充実を図っていく。 コーディネーショントレーニングについては、教員間での指導実践の共有などを基に、指導の充実を図っていく。
実現に向けた教育の推進	○エンカレッジルームの活用促進	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の生活指導夕会の実施 うきうきルームの担当 	<ul style="list-style-type: none"> 配慮、支援を要する児童の把握と共通した対応の実施（100%） 	95.8	95	A	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導夕会を核とした配慮や支援を要する児童の情報共有ができています。 うきうきルームの分担と役割を明示し、児童の居場所づくりができています。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって居場所と思える場所があることは重要だと感じる。 配慮、支援を要する児童の保護者に対する支援についても取組の充実等お願いしたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 共有された情報を基に、配慮や支援を要する児童への支援体制の充実を図ることができた。 児童の居場所づくりはできているが、効果的な支援や指導の在り方について検討する必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童の居場所が心のよりどころのような場所であることが重要だと考える。 教室や友達との関わりの中に居場所が見いだせるよう、引き続き取組の充実を図ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> SCやSSWとの情報共有について、更に密に行うことができるようにしていく。 うきうきルームの運用方法等について、個に応じた支援がより効果的に見えるよう改善を図る。
	○特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の校内委員会、ケース会議、研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 配慮児童への支援（100%） 各学期1回以上の保護者との面談の実施 	83.3	90	B	<ul style="list-style-type: none"> 各取組の確実な実施により、配慮や支援を要する児童や必要な配慮や支援の共通理解を図ることに一定の効果を感じている。 配慮や支援を要する児童への対応等について、ケースに応じた研修の検討に課題がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関する体制や取組がおおむね整備されていると感じる。 様々な個性ある児童同士が楽しんで生活や学習に臨める機会や環境の整備が重要だと感じる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関する体制や取組の整備を推進することができた。 定期的な面談を通して、家庭と学校で連携を通して指導することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関する体制や取組が整備されていると感じる。 特別な配慮や支援を要する子どもたちに対する理解に関する指導を取り入れていくことを検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関する各種の委員会を通じ、迅速な支援体制の構築に努めていく。 特別な配慮や支援を要する子どもたちに対する理解に関する指導を取り入れていくことを検討してはどうか。
	○外部機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じた外部機関との面談の実施（100%） 外部機関一覧表の作成と活用率の考察 	91.7	95	A	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて外部機関等と連携し、指導や支援に生かしている。 ケースに応じた外部機関等の一覧や連携の進め方等について整理し、校内で共有していくことに課題がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民を含め、外部からの協力が得られていると感じる。 配慮、支援を要する児童の保護者に対する支援についても取組の充実等お願いしたい（再掲）。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じた外部機関等との連携について、SCやSSW、巡回心理士等も活用しながらこれにあたることができた。 外部機関等の一覧や、連携の進め方等を整理することについては引き続き取り組んでいく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関等との連携について、SCやSSW、巡回心理士等も活用した充実を図っていく。 ケースに応じた外部機関等の一覧や、連携の進め方等を整理していく。 	

